

Masayuki Makino

Hisayoshi Suma



人間邂逅

human chance meeting

東京都渋谷区の「須磨ハートクリニック」のバルコニーにて。

「超一流」のロールモデル

世

の中の人間は、「二流」と「一流」、そして「超一流」の三種類に分けられる。同じ群れの中において、できない人間が二流で、できる人間が一流。一流と超一流の違いは群れの中にいるか、群れから飛び出すか。群れの中にいれば、失敗しても慰めてもらえ、うまくいけば褒めてもらえる。群れの外に出れば、失敗すれば嘲笑われ、成功すれば妬まれる。日本からはもつと超一流の人間が出るべきだ。必要なものは能力ではなく、孤独に耐えられるメンタルだろう。

これは須磨先生の発言です。須磨先生は日本初の「バチスタ手術」を成功させた「超一流」の心臓外科医。一〇年はど前、経営者の知人から「すごい人がいる」と紹介を受け、その魅力に打ちのめされました。以来たびたびご一緒しています。

須磨先生のキャリアは普通ではありません。大学の医局に属さず、最新技術を学ぶために海外を飛び回る。未知の難手術には、様々なリスクが伴います。それでも「患者のため」という原点から挑戦する。どんなときも自分の基準を貫く姿勢は、共感を覚えやすい、何より「格好いい」ですよ。

いま日本では前向きなチャレンジが減っていると感じます。おそらく原因は周りにロールモデルとなる大人がいないからです。若者のロールモデルになることは大人の仕事のひとつ。私も須磨先生のような格好いい大人を目指したいと思います。(牧野)